



# 片平キャンパス 歴史的建造物

1907(明治40)年に東北帝国大学が創設された本学発祥の地であり、昭和40年代前半までは多数の学部・研究所が集まった大学のメインキャンパスでした。青葉山・川内キャンパスへ工学部などの移転整備が進められた以降は、金属材料研究所、電気通信研究所などの世界的な研究成果を挙げている研究所や大学本部を中心とするキャンパスとして整備が進められてきました。最近では、旧東北帝国大学工学部金属工学教室(大正14年建設)の外壁を保存し改築したWPI-AIMR本館などが整備されているほか、キャンパス内の豊かな緑と近代建築が評価され、仙台市の「都市景観大賞」や、せんだいデザインウィークの「伝統デザイン賞」、「都市景観の日」実行委員会主催の都市景観大賞特別賞を受賞しています。

## ① 東北大正門

大正15(1926)年に建造された御影石貼の4本の角柱からなる門。門が街の中心部とは違う方向に開かれているのは仙台城を意識しているためだといわれています。(登録有形文化財登録予定)



## ② 東北大史料館→

大正15(1926)年に建設された旧東北帝国大学附属図書館閲覧室。現在では、百年にわたる東北大学の記録文書をはじめ、東北大学やその構成員に関する歴史的資料を保存・公開する史料館として様々な企画展を開催し公開しています。(登録有形文化財)



## ③ 東北大本部棟1→

昭和2(1927)、7(1932)、10(1935)年と3期に渡って建てられた旧東北帝国大学理学部化学教室は、大規模な改修を経て大学本部棟1として利用されています。スクラッチタイルの表情と周りの緑が相まって、学都仙台のシンボルといえるようないきわどい建物です。(登録有形文化財)



## ④ 魯迅の階段教室→

明治37(1904)年に建てられた、仙台医学専門学校の建築的遺構(医專六号教室)であり魯迅が学んだ校舎としても歴史的に貴重な建物です。当初は、博物・理化教室棟と一緒に建物でした。(登録有形文化財)



## ⑤ 東北大本部棟3↓

(旧仙台医学専門学校博物・理化学教室)

明治37(1904)年築の仙台医学専門学校の建築の遺構、東北大理学部地質学教室、保健管理センターなどに利用された後、現在は公開施設として利用しています。(登録有形文化財)



## ⑥ 放送大学↓(旧東北帝国大学理学部生物学教室)

大正13(1924)年に完成した仙台で最初期の鉄筋コンクリート造で、ゼツウェッショング様式の玄関廻りや片平丁から見える円形コーナーが美しい建物です。現在は放送大学、展示施設として使用しています。(登録有形文化財登録予定)



## ⑦ WPI-AIMR 本館と北門→

(旧東北帝国大学工学部  
金属工学教室外壁)

大正13(1924)年に建てられた建物を外壁を残し改築。スクランチタイルの創り出す落ちていた雰囲気は片平キャンパスの顔として90年以上親しまれています。また北門周辺も開かれたキャンバスとして堀や門扉を撤去しポケットパーク状に再生しました。



## ⑧ 多元物質科学研究所

南1号館 + 事務部棟→大正15(1926)年に焼失した東北帝国大学工学部の機械工学及び電気工学教室の新築として昭和5(1930)年に建てられた本学工学部の歴史を伝える建物です。エントランスホールが帝国大学の氣品を残しています。(登録有形文化財登録予定)



## ⑨ 21世紀ITセンター→

仙台高等工業学校の建築学科であり、南六軒丁に向けたゲートとして昭和5(1930)年に建設、一時は東北大学の建築学科としても使用されました。表現主義的デザインで、仙台高等工業のマークが入った煉瓦アーチも特徴的です。(登録有形文化財登録予定)



## ⑩ 文化財収蔵庫→

(旧第二高等学校書庫)  
明治43(1910)年ごろに建てられた仙台に残る明治期煉瓦造建築の貴重な例。明治維新後、全国に建てられた煉瓦造建築の歴史を伝える遺構であり、仙台では他に例がなく貴重な都市財産です。(登録有形文化財)

